

令和 7 年度 第 2 回 中城御殿跡地整備検討委員会

中城御殿の外観ディテール等

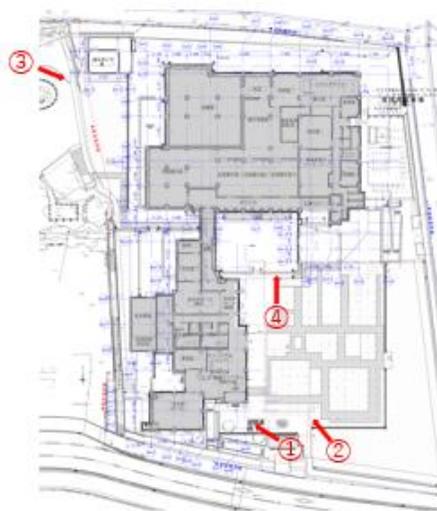
1. 御内原エリアの外壁の再現
2. 増床部の外観ディテール
3. 外装化粧木の腐食防止対策
4. 赤瓦の寸法・文様
5. 監視カメラ配置と見え方
6. 屋外消火栓の色調
7. 設備フードの見え方

1. 御内原エリアの外壁の再現

4. 立面計画（外観イメージ）

令和6年度第1回中城御殿跡地整備検討委員会資料再掲

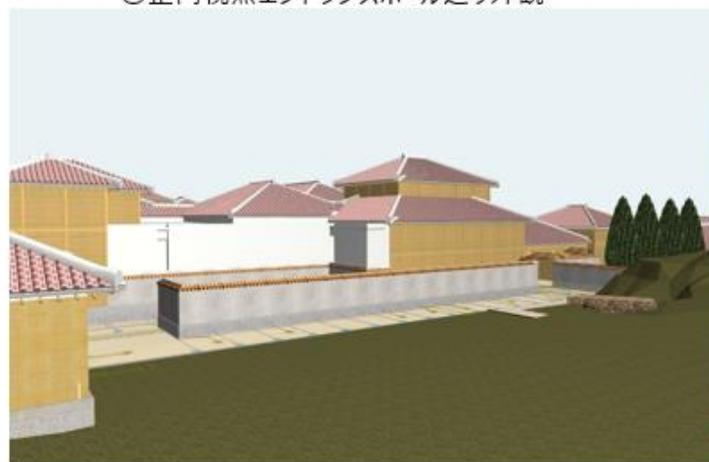
- 表御殿エリアは板図に則った外観とするため、板図の凡例毎に古写真からモジュールを作成し、外観を再現する。
- ➔ ● 御内原エリアは古写真の現存する中御庭側、東側を再現。その他の再現壁部分は資料が不在のため無開口の木壁とする。
- ➔ ● 増床部分は低層部分を瓦石垣を模した仕上げとし、上層部分は左官調塗装仕上げにより、再現部分との区別と質感の調和を図る。



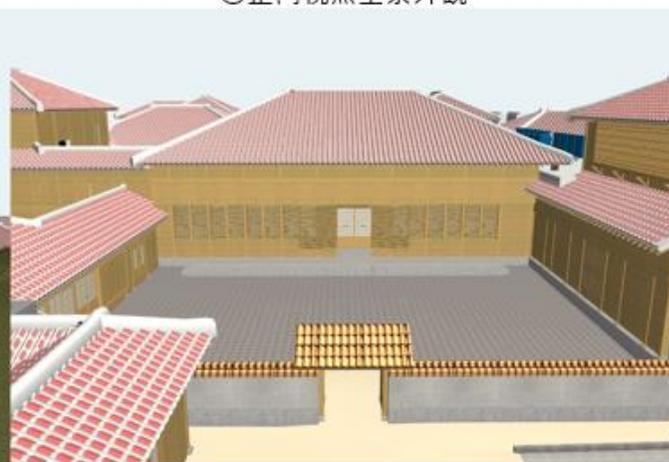
①正門視点エントランスホール廻り外観



②正門視点全景外観



③上之御殿視点全景外観

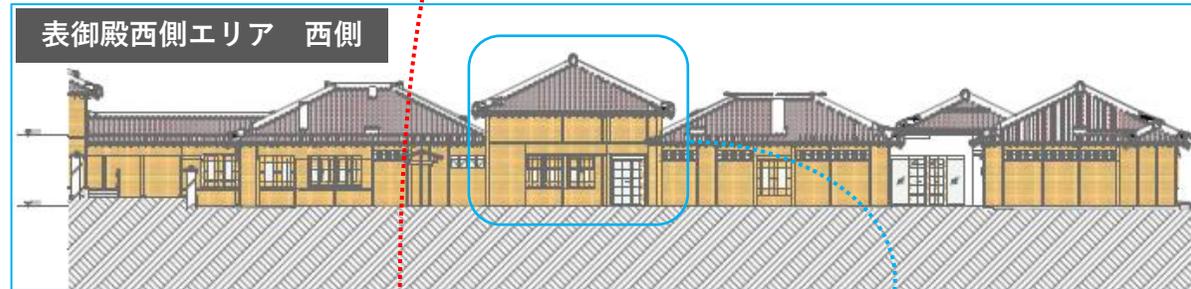
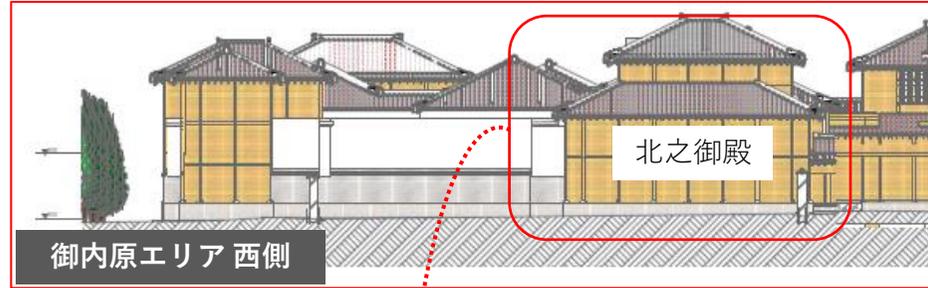
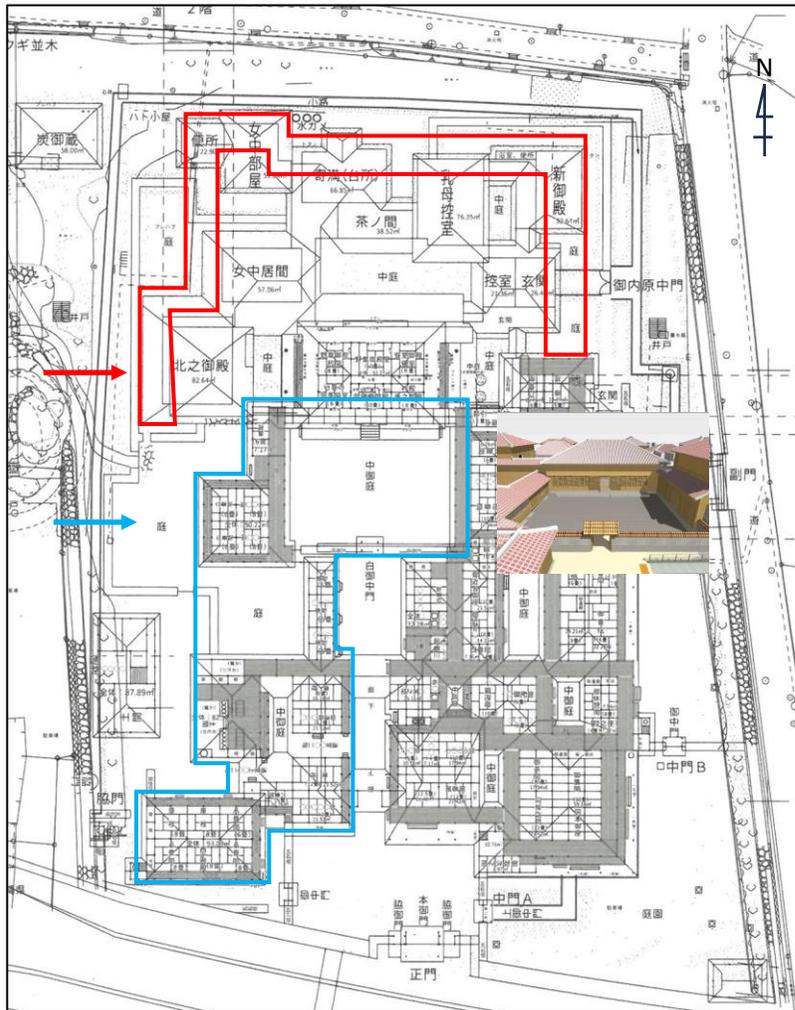


④中御庭外観

1. 御内原エリアの外壁の再現

【下図青枠エリア】板図で確認ができる表御殿西側エリアは、概ね建具の再現が可能。

【下図赤枠エリア】板図（根拠）がない御内原エリアについて、再現できるだけの資料が乏しいため建具を設置しない計画とする。



H23年度 中城御殿跡地整備検討報告書より

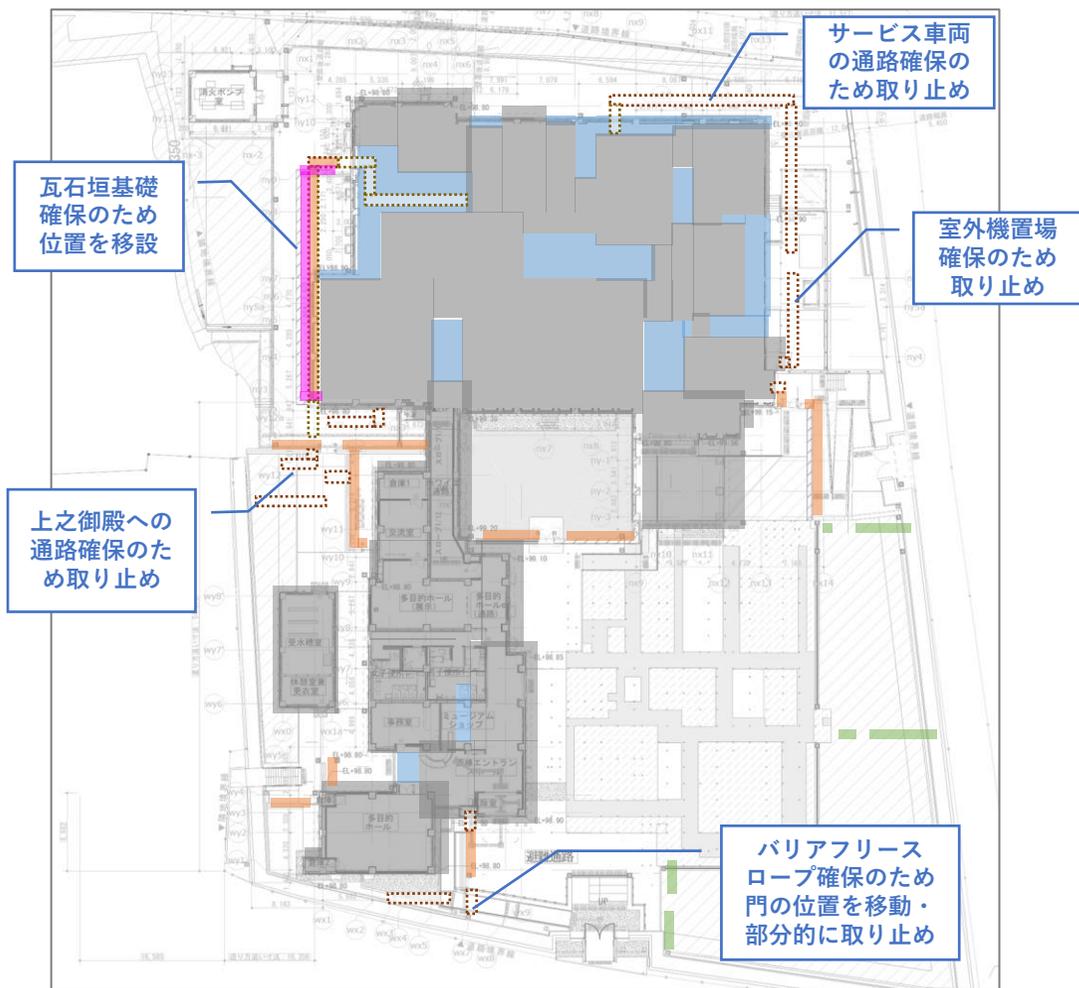
建具無し（御内原）

建具有り（表御殿）

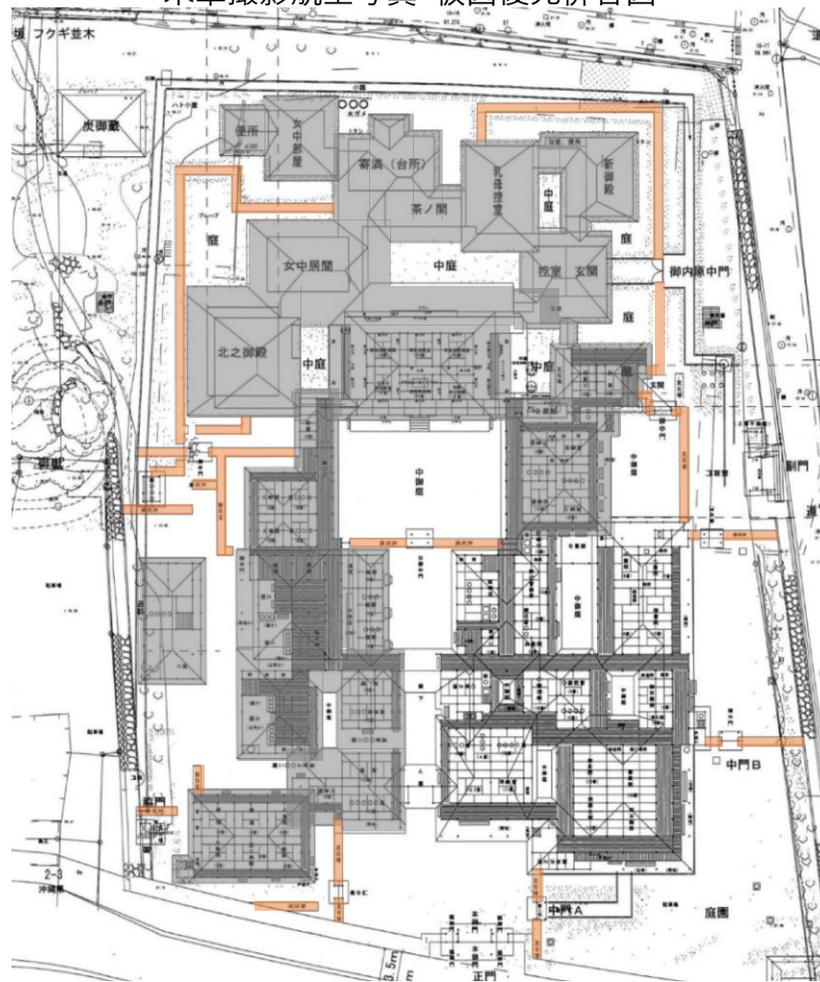
2.増床部の外観ディテール（復元図と現平面図との比較）

H23年度の整備検討報告書と現計画の瓦石垣の配置を比較。瓦石垣の基礎・スロープ・室外機置場・サービス通路・上之御殿への通路確保等の理由から、一部移設・取り止めとなっている。

R7年度中城御殿建設工事



H23年度中城御殿跡地整備検討報告書
米軍撮影航空写真・板図復元併合図



- | | | |
|----|-----------|-----------|
| 凡例 | 瓦石垣再現部分 | 瓦石垣移設元 |
| | 瓦石垣将来工事部分 | 瓦石垣移設再現部分 |
| | 瓦石垣取り止め部分 | 増床（陸屋根）部分 |

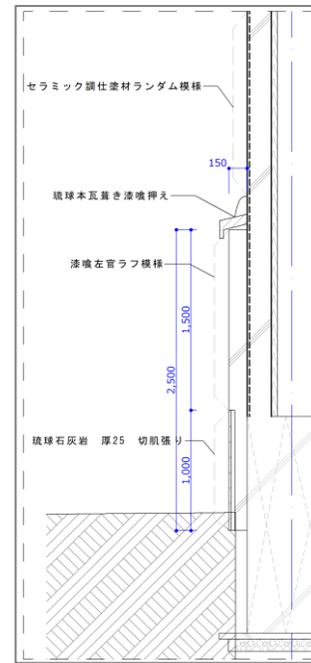
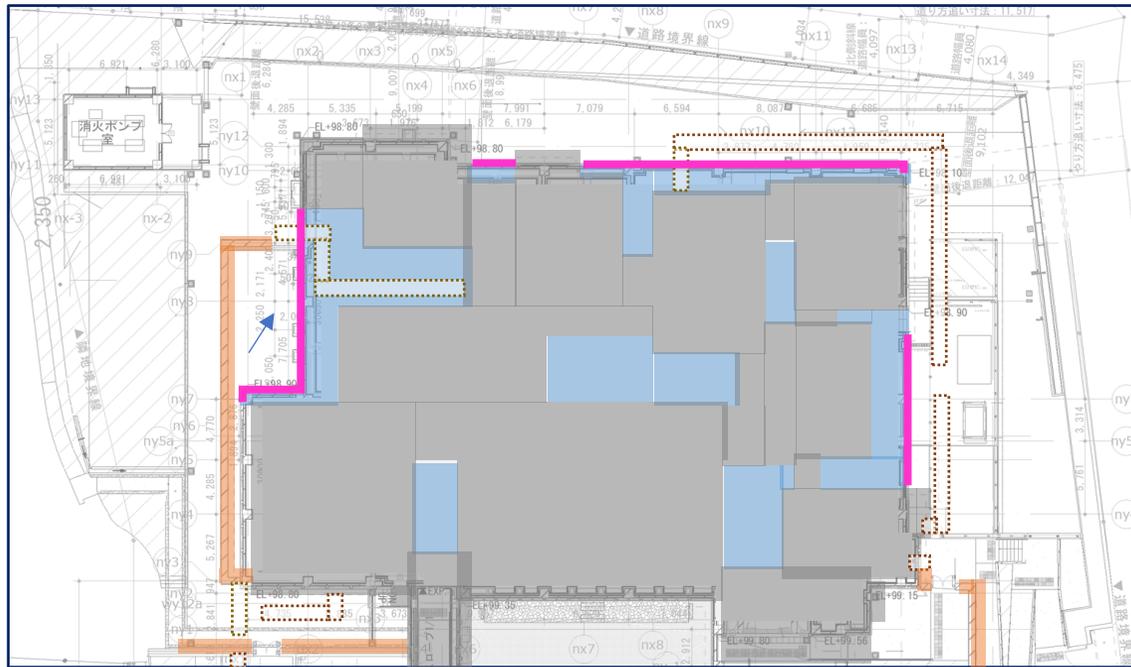
- | | |
|----|-------|
| 凡例 | 瓦石垣部分 |
|----|-------|

2.増床部の外観ディテール（瓦石垣表現検討）

■（現計画）外壁を瓦石垣の表現で統一する案

現計画では、右パースのとおり増床部外壁への瓦石垣を模した仕上げとして表現を行う計画。

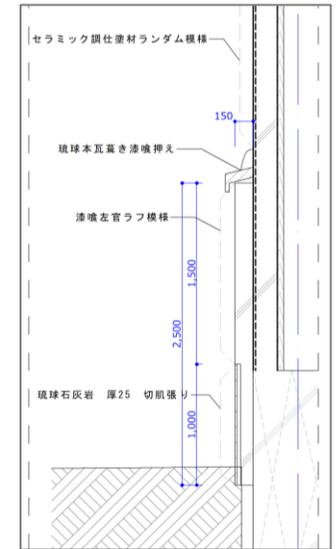
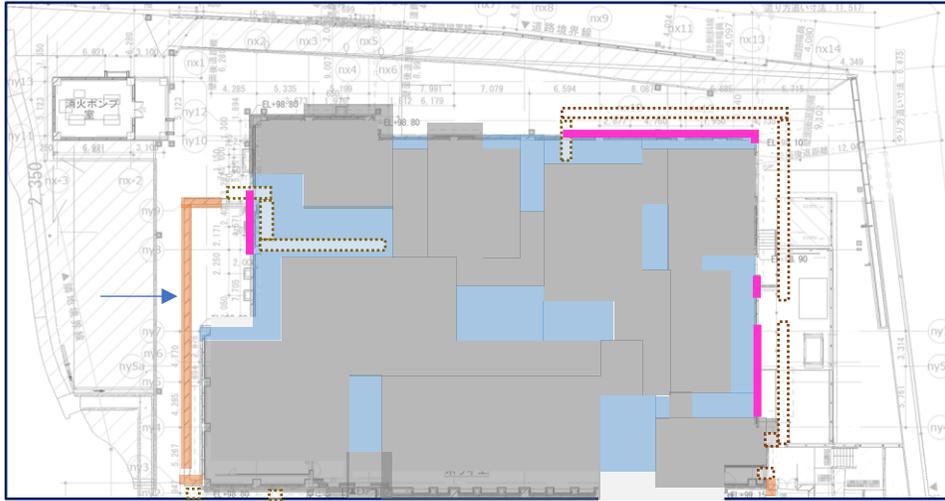
R7年度中城御殿建設工事



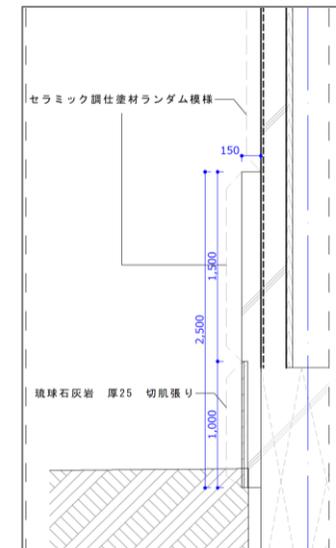
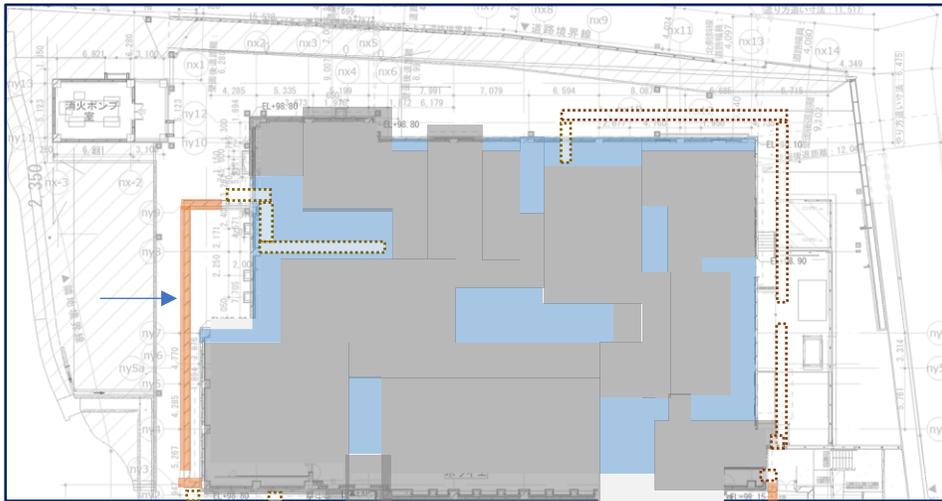
- | | | |
|----|------------|-----------|
| 凡例 | 瓦石垣再現・移設部分 | 増床（陸屋根）部分 |
| | 瓦石垣取り止め部分 | 外壁瓦石垣表現部分 |
| | パース位置 | |

2.増床部の外観ディテール（瓦石垣表現検討）

■A案：瓦石垣を取りやめとした部分のみ、外壁に瓦石垣を表現する案



■B案：瓦石垣としての表現を取りやめる案



凡例

- 瓦石垣再現・移設部分
- 増床（陸屋根）部分
- 瓦石垣取り止め部分
- 外壁瓦石垣表現部分
- パース位置

2.増床部の外観ディテール（瓦石垣表現検討）

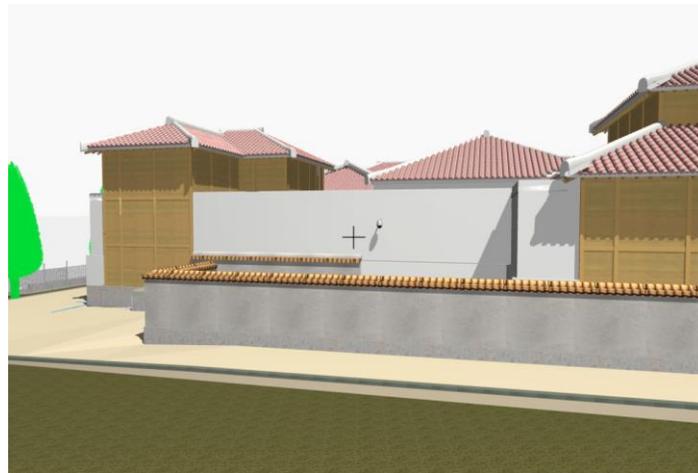
■瓦石垣の外壁表現のまとめ

瓦石垣そのものではないので、B案による外観の表現が望ましいと考える。

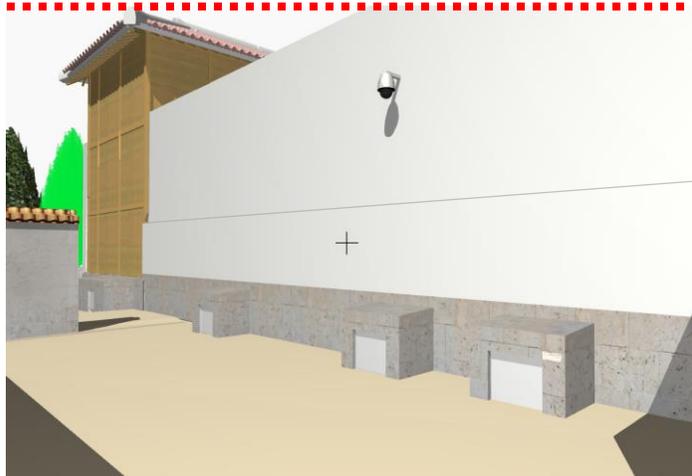
西側外壁アイレベル

上之御殿側アイレベル

A案

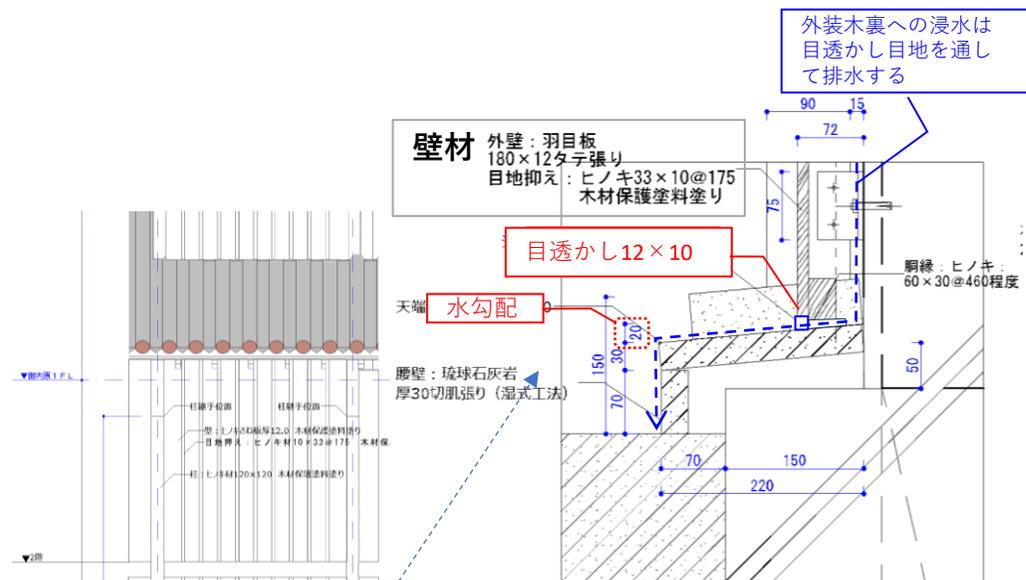


B案

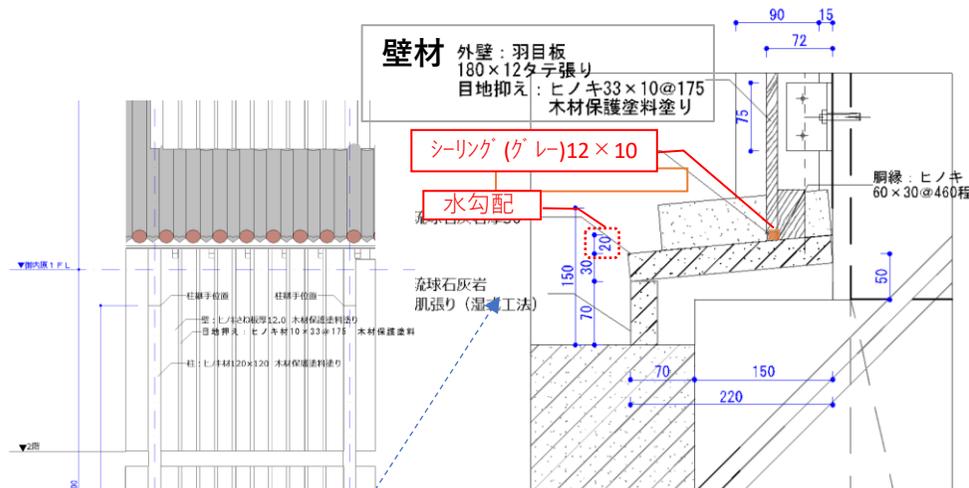


3. 外装化粧木の腐食防止対策

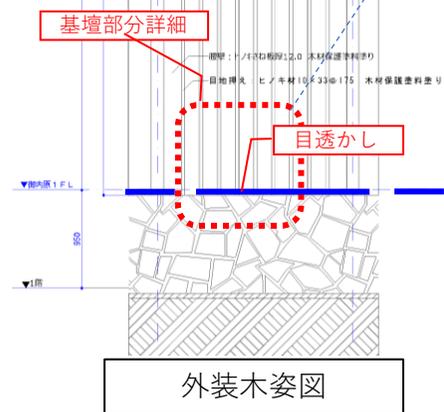
- 壁板部分の基壇上を外装木とRC壁の間への浸水を排水するためA案の目透かしとする。
- 外装木の雨水による腐食防止対策として基壇の琉球石灰岩に水勾配を設ける。
- 柱部分は目透かしを設けず、再現性を優先する。



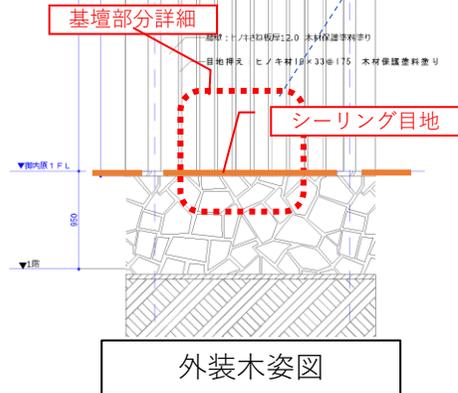
壁板基壇部分断面詳細図



壁板基壇部分断面詳細図



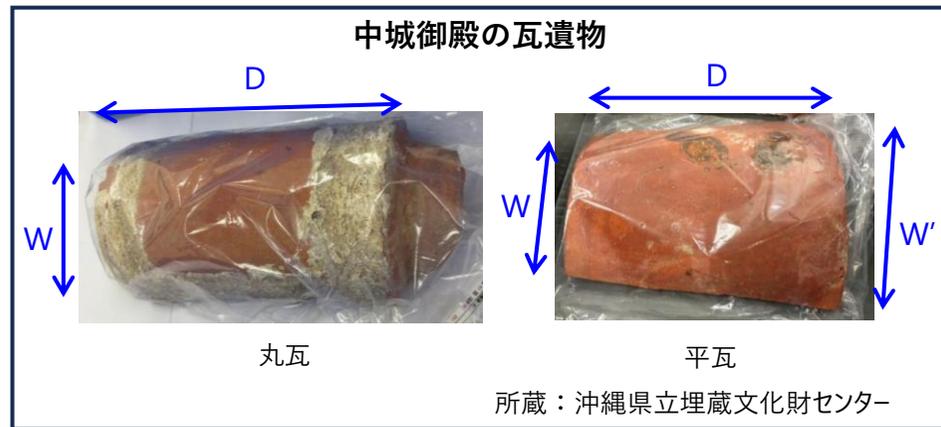
A案
浸水を排水するための
目透かしとする案



B案
シーリングすることで雨水
の含水・浸水を防ぐ案

4-1.赤瓦の寸法

- 県立埋蔵文化財センターに収蔵されている中城御殿瓦遺物の採寸結果と、既成瓦と首里城正殿瓦（令和の復元で金型から製作）との比較を下表に整理する。
- 遺物を基準とすると、既成瓦は奥行き（D）の差が大きく、首里城正殿瓦の方が遺物との寸法差が小さいことがわかる。



遺物寸法と既成瓦寸法との比較

（※：役物瓦遺物は瓦当文様部分のみ現存のため、雄瓦を参考とした数値）

単位：mm

項目		遺物	首里城正殿瓦	既成瓦
軒丸瓦	D	※ 245	+22 267	+75 320
	W	155	-3 152	-5 150
丸瓦	D	245	+55 300	+22 267
	W	155	-3 152	-5 150
軒平瓦	D	240	+55 295	+32 272
	W	230~256	-8 ~ -14 222~242	+35 ~ +19 265~275
平瓦	D	240	+12 252	+55 295
	W~W'	200~257	-3 ~ -15 197~242	+65 ~ +18 265~275

4-2.赤瓦の文様

- 中城御殿の瓦遺物、軒丸瓦（タイプA）と軒平瓦（タイプC）が、首里城正殿瓦の瓦当文様と似ていることがわかった。
- 限られた工期の中で可能な限り遺物形状に近い瓦を確保する方法として、首里城正殿瓦の金型を活用する②が望ましいと考える。

中城御殿の瓦遺物（瓦当文様）



軒丸瓦（左：タイプA、右：タイプB）

軒平瓦（左：タイプC、右：タイプD）

所蔵：沖縄県立埋蔵文化財センター

首里城正殿瓦の瓦当文様



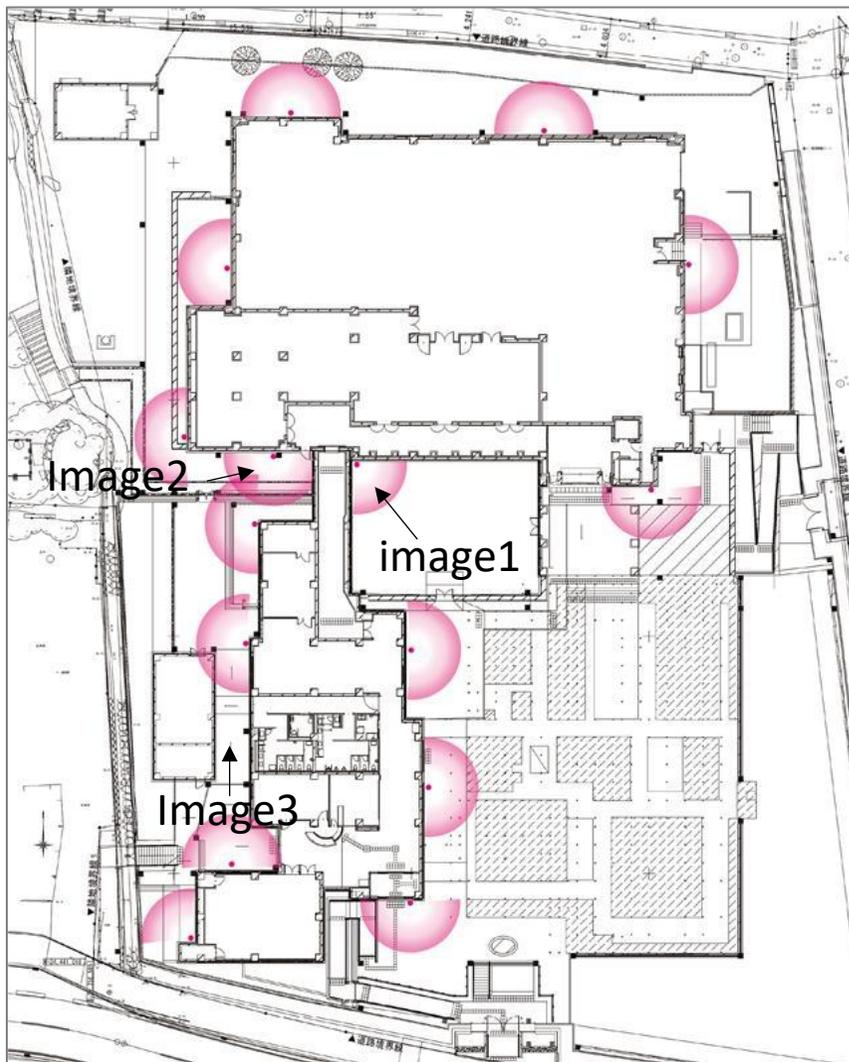
軒丸瓦

軒平瓦

項目	①遺物を再現した瓦	②首里城正殿の金型活用瓦	③既成瓦
		中城御殿の瓦遺物の形状を再現すべく金型から検討・製作	首里城正殿瓦の金型を活用し、材料・工程・品質は既成瓦レベルで製作
再現性	○	○	×
メンテナンス	×	△	○
工期 金型製作～焼成	×	△	○
コスト ※③を基準とする	×	△	○
評価	<ul style="list-style-type: none"> ■ 往時に近い瓦形状の再現が可能。 ■ 金型の造形検討にも時間を要することが想定される。 ■ 受注製造のため③既製品に比べコストが高い。 ■ 台風等による破損対策のストック確保や特注金型の保存管理等の検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 軒丸瓦・軒平瓦の瓦当文様の再現が可能。 ■ 受注製造のため、③既成瓦に比べ工期が長くなるが、新たな金型を製作する期間・コストは不要。 ■ 材料や工程は既成瓦に準ずることで①遺物を再現した瓦よりもコスト縮減が可能。 	再現性は最も低いですが、既成瓦を利用するため、必要量の瓦確保の工期が短く、安価。汎用品となるため、破損対策も容易。

5. 監視カメラ配置と見え方

- 可能なかぎり死角をつくらないように配置する。可能なかぎり人目につきやすい場所に設置する。



監視カメラプロット図



image1

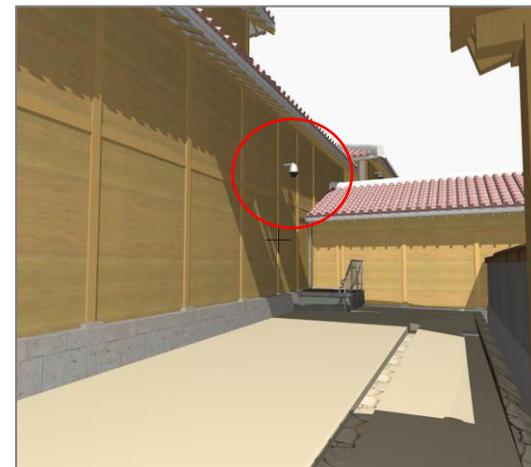
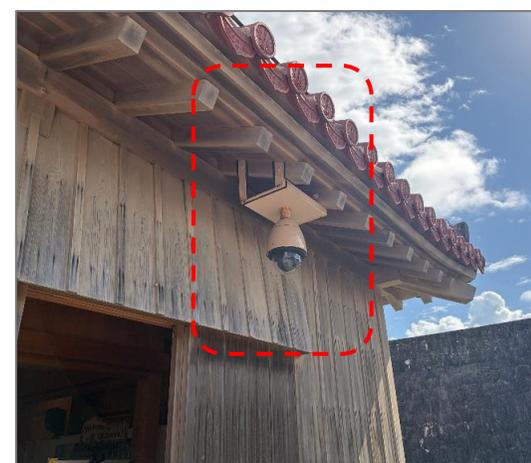


image2



image3



監視カメラ参考「世誇殿」

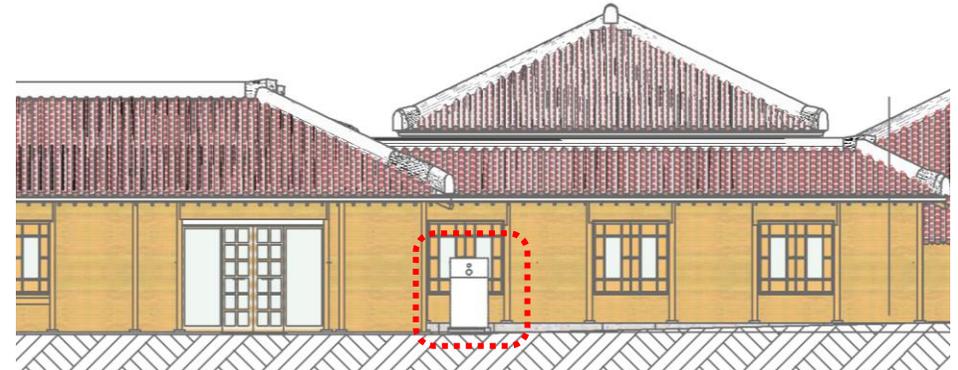
6. 屋外消火栓の色調（屋外消火栓の配置）

- 屋外消火栓の設置場所は外装木仕上げが背景となる部分と瓦石垣が背景となる部分に分けられる。
- 背景別に屋外消火栓の塗装の色調を検討する。

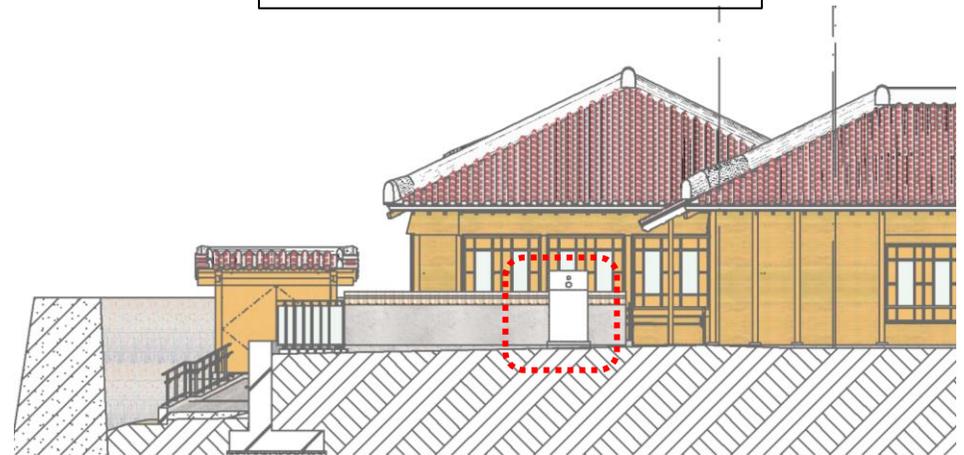


凡例

- 屋外消火栓（背景外装木仕上げ部分）
- 屋外消火栓（背景瓦石垣部分）



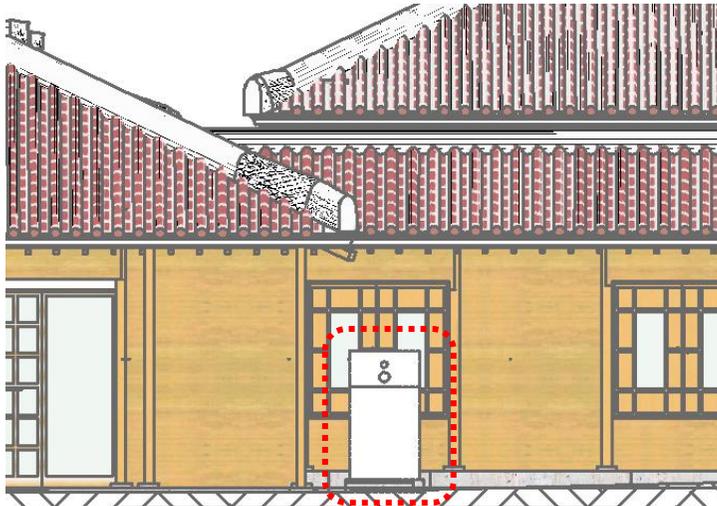
屋外消火栓の背景が外装木となる部分の姿図



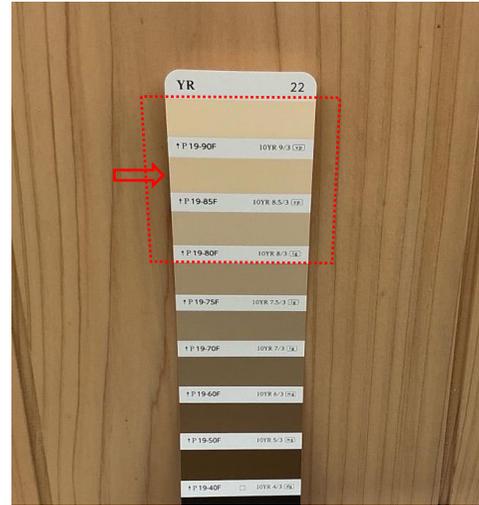
屋外消火栓の背景が外装木となる部分の姿図

6. 屋外消火栓の色調（背景：外装木の場合）

- 外装木仕上げが背景となる屋外消火栓は、ヒノキ材との調和が望ましい。
- 経年劣化による退色に配慮し、首里城世誇殿に近い色調を選定する。



屋外消火栓の背景が外装木となる部分の姿図



モックアップ外壁色：10YR8.5/3



首里城世誇殿外壁色：2.5Y7.5/1

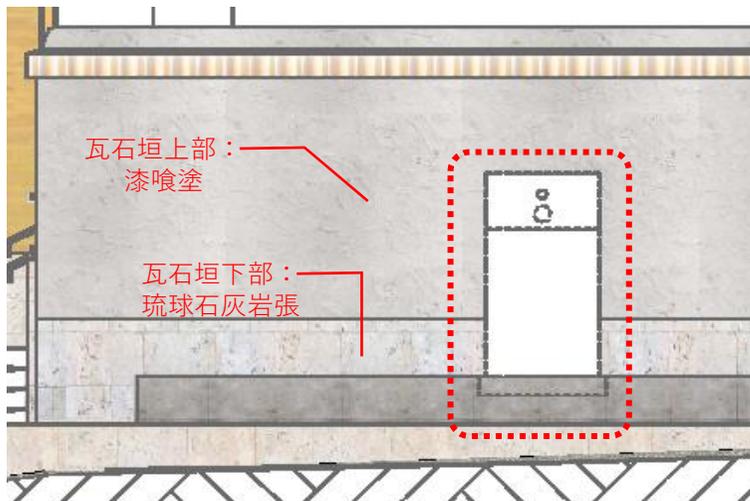


参考) 首里城世誇殿廻り屋外消火栓

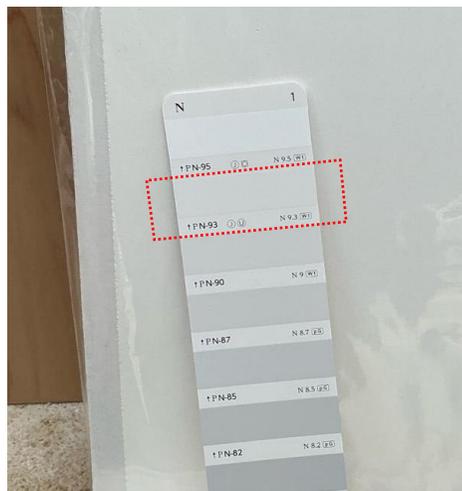
首里城世誇殿消火栓色：
2.5Y9/1

6. 屋外消火栓の色調（背景：石垣の場合）

- 瓦石垣が背景となる屋外消火栓は、漆喰部分との調和が望ましい。
- 経年劣化による変色に配慮し、首里城瓦石垣の漆喰色に近い色調を選定する。



屋外消火栓の背景が外装木となる部分の姿図



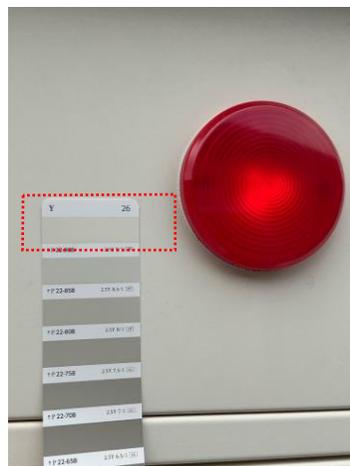
漆喰サンプル色：N9.3



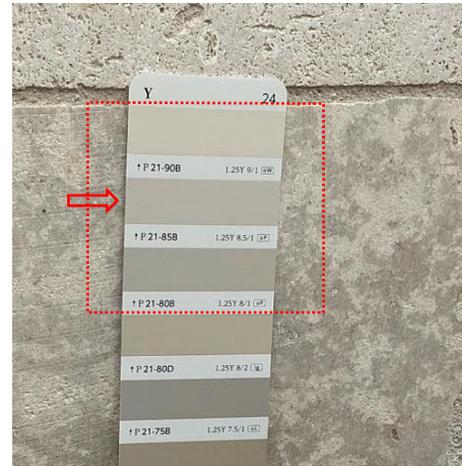
首里城瓦石垣漆喰色：N8.7



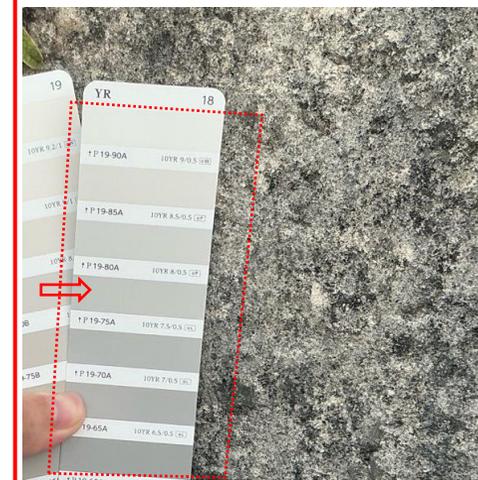
首里城内城壁廻り屋外消火栓



城壁廻り消火栓色：2.5Y9/1



モックアップ琉球石灰岩色：1.25Y 8.5/1



石牆琉球石灰岩色：10YR 7.5/0.5

7.設備フードの見え方（御内原エリア）

- 御内原エリアの設備吸排気フードは可能な限り集約して増床となる陸屋根部分に集中配置する。
- 外壁の再現部分の設備フードはルーバーにより外観上、目立たないように配慮する。

変更前



設備フード露出案（当初）

変更後



設備フードをルーバー内に設けた案

御内原 北東側視点